

か重くせんかとうたがひて、決しがたくば重につくべし、鄙吝なるべからず、

〔東都歳事記四十二月〕歳暮賀當月下句、知音親戚に往來し、又歳暮となづけて、餅乾

〔年中行事故實考十二月〕歳暮 今月下旬、親戚互に物を贈り、其外我に恩ある人には、分に應じて

物を贈る、一年の終なれば、かくことぶくにや、和漢同じ風俗也、風土記曰、吳蜀風俗、歳晚相與餽

謂之餽歲、熙朝樂事曰、僧道作交年疏、仙米湯、以送檀越、醫人亦送屠蘇袋、同心結、及諸品湯劑於常

所往來者、

〔書言字考節用集二時候〕御梳上公事歳暮

〔故實拾要五〕十二月 御髮上 是年中ノ御髮ノクズヲ、吉日ヲ撰テ燒上ル事也、是ヲ御髮上ノ祭

ト云也、極薦主殿寮ノ官人衛士等此事ヲ勤也、

〔小野宮年中行事十二月〕午日御髮上事

〔東宮年中行事十二月〕しものむまのひ、みぐしあげの事、

このひ御めのともしは、まかるべき上らう女房、御ぐしをあひぐして、宮づかきのびりやうにのりて、殿もんれうにむかふ、ぎやうじのくら人あひしたがふ、御くしは御ころもばこのふたに入たてまつる、御くし十枚ばかりあひぐせらる、をりて御はらへにいれたり、ちんこんのまつり御衣のやうに、やつあしにすへたてまつりて、女房ならびに、左右ひやうゑ、たちはきぐぶ、殿もんれうにいたる、たゞしかのれうやけてのち、大くらしやうひくりをまうく、しゆせんけむ、ぐぶの人人のれうに、きやうをまうく、御ぐしやく所には、あなをほりて、そのうへにとりゐのやうにきをたて、これをやく、事をほりてかへりまいる、

今案、としのうちには、るたつとしは、たつはるよりさきのむまのひ、この事あり、又いまだ火もともさぬさきほしのいまだいでぬほどに、これをやくといへり、行事の宮づかさならびにく

髮上